



The Japan Center for Conflict Prevention

Newsletter

特定非営利活動法人 日本紛争予防センター 2010年5月10日

6巻1号



1部100円(税込)



Photo: 日本から送られたクメール語の絵本を読む児童たち
(サンダン郡・カンボジア)

特集 カンボジア

P.1-3

カンボジア図書室支援同行記
カンボジア事業を振り返って
JCCP カンボジア活動年表

P.4-5

マケドニア事業
民族の垣根を超えた子どもたちの交流
スーダン：ストリートチルドレン
ケニア：新プロジェクト始動！
新スタッフからご挨拶

P.6-8

JCCP 国内事業
講演会レポート
支援感謝
JCCP カレンダー・メディア掲載
会員案内

カンボジアのサンダン郡にある2つの小学校では、真新しい図書室で、子どもたちが毎日目を輝かせながら読書を楽しんでいます。これらの図書室は大阪の茨木東ロータリークラブ様からのご寄付により昨年6月に設置されたものです。今回は、その図書室の視察のため現地を訪れた同ロータリークラブの方々子どもたちとのふれあいの様子をご紹介します。

この時期の気温は摂氏38度前後。目的地が遠いため、前日の夜は首都プノンペンから車で3時間半ほどの町コンポントムに宿泊。翌朝、まだ薄暗い5時半に出発し小学校を目指しました。地方の小学校は朝7時から始業です。現地に着いたのは8時半頃。ヴィールプリン小学校とブムクメール小学校の2校では、どちらも裸足の子どもたちが緊張の面持ちで整列し我々一行を待っていました。

今回の訪問目的は、図書室が子どもたちのために有効に活用されている様子を確認すること、支援者の方々と交流体験により、子どもたちに新たな世界を知ってもらうこと、そして支援者の方々に現地の状況を見ていただき、肌で感じていただくことでした。

日本からの訪問メンバーは50歳から70歳代。皆さんの豊富な人生経験を活かしての交流が始まりました。日本の歌とカンボジアの歌の交換、歌を使ったゲーム、手品のパフォーマンスと先生への手品指導、折り紙、切り紙の披露、そしてお互いに質問のやり取り。大人も子どもも全員で楽しい一時を過ごしました。手品を見るのは初めての子どもたちは、みんな真剣な眼差し。それが驚嘆し、さらにはちきれんばかりの笑顔へと変わる様子がとても印象的でした。



子どもたちに日本の歌を紹介する支援者の皆さん

カンボジア 図書室支援視察 同行記

茨木東 RC の皆さんと共に

櫻井 京子 Kyoko Sakurai
カンボジア事業担当 Project Coordinator

そして、ロータリークラブの方々の子どもたちへの惜しみない働きかけがなにより感動的でした。図書室は研修を受けた先生によって運営・管理され、子どもたちは毎日読書に親しんでいます。以前よりも国語のテストの成績が上がったという嬉しい報告も受けました。子どもたちにとって、本は外の世界を知る貴重な手段です。「将来の夢は何？」という質問に、学校の先生、エンジニア、首相という声が上がりました。私たちが訪問する前日に、この村にもようやく電気が開通したとの報せも聞き、この地域もゆっくりとした歩みながら、子どもたちの成長と共に着実に発展していくに違いないとの想いを深めながら学校を後にしました。

※この事業は、2010年4月に新たに設置された別の3つの小学校の図書室も含めて、大阪府の茨木東ロータリークラブ様からのご寄附により実現したものです。
※この事業には社団法人シャンティ国際ボランティア会(SVA)カンボジア事務所様から、クメール語の絵本100冊(50冊×2校分)の寄贈をいただきました。



小型武器破壊式典にて、武器に点火する明石会長 (2001 年)

2001 - 2010

JCCP とカンボジア
10 年の歩み

カンボジア事業を 振り返って



堂之脇 光朗 Mitsuro Donowaki
JCCP 理事長

カンボジア事業 終了のお知らせ

JCCP は、カンボジアにおける紛争後の平和の定着という使命を終えたとの認識から、2010 年 4 月末をもってカンボジアでの活動を終了いたしました。

ご支援いただいた皆様、本当にありがとうございました。

当 センターのカンボジアでの最初の事業が 2001 年 7 月 9 日の小型武器破壊式典であったのは象徴的なことであった。前年 1 月にカンボジアを訪問した当時の小淵総理は小型武器問題での協力を約束されたが、その後 EU と共同してこれを行うこととなり、この式典も日・EU・カンボジア政府の共催となった。式典では当センターの明石会長が点火を行ったが、副会長であった私はこの日からニューヨークで開催された初の国連小型武器会議の閣僚級会合の議長をつとめた。小型武器問題への関心が世界的に高まった時期であった。

翌 2002 年 2 月から当センターは現地の NGO と協力して小型武器回収事業を開始し、成果が多かった村には井戸を掘削するなど「武器と引換えに開発を」の活動を展開した。当初の 2、3 年は政府補助金の一部を用いてこれを実施したが、当センターが補助金に頼らない完全な民間 NGO となってからの 2006 年にかけては、JICA の委託事業として数万人規模の村民たちを対象に草の根レベルで武器回収と開発事業を実施した。

政府間レベルでの支援の方は、当センターの源馬謙太郎職員（現在静岡県議会議員）が EU の現地事務所

(EUSAC) に出向する形で開始されたが、2003 年 4 月にはそれを引き継ぐイニシアチブとして、日本国際協力システム (JICS) の現地事務所 (JSAC) の立ち上げを支援し、JICS は武器回収だけでなく武器破壊、武器管理庫整備などの本格的支援を 2007 年まで実施した。当センターによる事業が数千万円規模であったのに比べて JSAC による事業は数億円規模であったが、両者が表裏一体となって満足すべき成果を収めた。

他方、2001 年 12 月には紛争の根源的原因を取り除くとの観点からラタナキリ州に 10 数の寺子屋を設立して国内最大の少数民族であるタンブーン族への識字教育事業を開始した。この事業にはその後国際ボランティア貯金、日本国際協力財団、その他多くの民間財団からも支援をいただいた。この他にも、2004 年頃からは外務省の NGO 支援無償資金協力による僻地での小学校建設や、衛生施設設置、井戸掘削、インフラ整備など数々の事業を実施してきた。

以上の当センターの事業活動をふり返ってみると、幸いにしてカンボジアでは内戦再発が懸念された時期は次第に過去のものとなり、紛争予防、平和構築の活動対象国とは言えない状況となってきている。今日の課題は一層の社会・経済基盤の整備拡充、国民に活気と生き甲斐を与える「よき統治」の推進などであるが、これは世界の大多数の諸国が直面する課題にほかならず、カンボジアの成長ぶりを示すものと考えてよいであろう。



◀ JCCP カンボジア・プノンペン事務所
現地スタッフ



April 05, 2010

件名: Thank you very much for your kind support.
宛先: カンボジアを想い、支援して下さった全ての皆様

現地からの便り

JCCP カンボジア事務所の現地スタッフ、タム・チャンベック（上写真：中央）です。私たち JCCP カンボジアでは、農村部や僻地に暮らす経済的に恵まれない人々の貧困緩和と生活改善をめざして、学校の建設や識字教育、衛生教育、そして皆様のご支援による図書室整備などを実施し、着実な成果を上げることができました。これも、皆様からのあたたかいご厚意とご支援のおかげと、心から感謝しています。本当に、ありがとうございました。

これまでご寄附とご支援によって恩恵を受けた多くのカンボジアの人々を代表して、日本で暮らしている皆様の幸せを、平和への道を歩みつづけるカンボジアの空の下で祈っています。

Tam Chanpheak (Ms.) / JCCP Cambodia

紛争から平和へ カンボジアの歴史と今

JCCP カンボジア活動年譜

1970

ロン・ノルによる軍事クーデター

1975

ポル・ポト軍プノンペン入城
(虐殺と内戦の激化)

1979

ベトナム軍の侵攻、
ヘン・サムリン政権樹立

1991

パリ和平協定 (内戦終結)

1992

国連カンボジア暫定統治機構
(UNTAC) による平和維持活動
開始

1993

第1回総選挙実施

1997

政権闘争による武力衝突

1998

第2回総選挙実施

2003

第3回総選挙実施

2008

第4回総選挙にて与党・
人民党が大勝

2009

クメール・ルージュ裁判の
公判開始

2001

2002

2003

2004

2005

2006

2007

2008

2009

2010

2011...

2001年7月

「小型武器破壊式典」(コンボンチュナン州)
カンボジア政府が回収した銃や自動小銃、
弾薬など小型武器を破壊

2002年2月～2006年5月

「小型武器回収と農村開発プロジェクト」
バットアンバン州、シェムリアップ州など14州、
JICAの委託事業となった2004年以降はクラチェ
州とコンボンチュナン州にて、武器供出に成果の
あった農村に対し、貯水・給水インフラを設備



銃を回収するスタッフと元兵士(2005年)

2001年5月～2010年4月

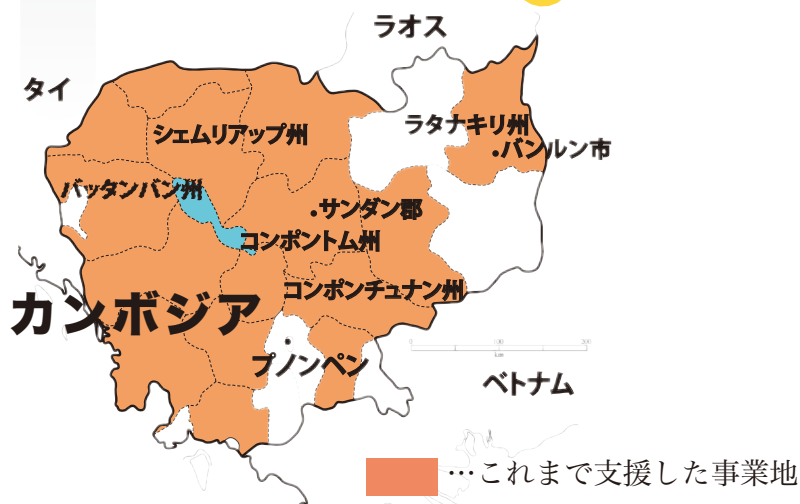
「小学校建設・インフラ改善プロジェクト」
(コンボントム州など計6州)
・校舎と井戸・トイレ・橋の建設、衛生環境教育
・図書室整備と本の寄贈など

2001年12月～2010年4月

「少数民族のための識字教育プロジェクト」
(ラタナキリ州)



識字教室で学ぶ子どもたち(2005年)





マケドニア

上田 貴子 Takako Ueda
JCCP バルカン事務所 Project Coordinator

春の訪れを待ちながら…民族の垣根を超えた子どもたちの交流
異なる民族間の交流促進／スツルガ市の小学生による
共同清掃とワークショップ事業

1月11日にプロジェクトが始まってから、2ヶ月半がたちました。当初は、市役所も学校も我々も、スツルガにおいて民族の異なる小学校をお互い行き来し、何かを一緒にするという試みは初めてであったことから、心配や不安がたくさんありました。これまでに、14回のワークショップを開催し、この取り組みは現地で高い評価を得て、地域に徐々に良い影響を与え、市役所や学校や我々も自信を持って取り組むようになってきています。

そのパワーの源は子どもたちです。ワークショップに集まる4年生から7年生（マケドニアでは小学校は8年生まで）の生徒は、民族の垣根なく、素直に歌や絵画制作や演劇ワークショップを楽しんでいます。コーディネーターの先生が、学校の生徒に「JCCPのワークショップにまた参加したい人！」と聞くと、みんなが手を挙げます。さらに、まだ参加していないクラスの生徒は、いつ参加できるのかと先生に問い合わせてきています。

※このプロジェクトは、外務省の日本 NGO 連携無償の資金協力と、会員や寄付者の皆様からのご支援により実施しています。

スーダン南部の首都ジュバでは、戦争で親を亡くし路上やスラムで生活していたり、貧しさのために学校へ通えなかったりしている子どもや若者たちのための職業訓練と啓発活動が終盤をむかえています。

職業訓練では、ホテルやレストラン、事務所などで需要の高い清掃人やウエイター・ウエイトレス、調理人として働ける人材を養成するために、ハウスキーピングと給仕・調理のトレーニングを行いました。教室での授業に加え、ホテルでの実習も含んだカリキュラムは2ヶ月にわたりました。全ての過程を終えた訓練生が卒業式に参加したのは4月8日。男女40人が修了証書を手に入れました。式では、訓練をはじめた当初にくらべ、自信と誇りに満ちたみんなの笑顔が印象的でした。



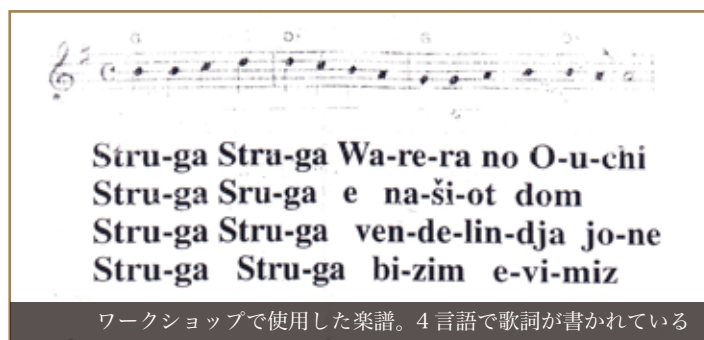
ベッドメイキング実習の様子

■大人への波及効果

子供達はワークショップで習った日本の歌「しょうじょう寺の狸ばやし」や4言語の歌詞をよるこびの歌のメロディにのせた「スツルガの歌」を帰ってから自宅の家族の前で披露したり、折り紙で兄弟姉妹と遊んだり、演劇ワークショップやポスターの共同制作でどんな子とどんなことをしたか両親に話します。そのため、子どもたちの保護者がこの取り組みに良い印象を持っていると先生方に報告しているそうです。コーディネーターの先生方も、積極的にワークショップの輪に加わり、子どもたちをサポートするようになり、何より笑顔で参加するようになりました。毎週コーディネーターの先生方は顔を合わせるなのでお互いの信頼関係も強まっています。コーディネーター以外の先生も見学に訪れるようになりました。校長先生は、生徒に飲み物を差し入れてくれたり、教室を会場として提供してくれたりとても協力的です。

■春の訪れとともに

2月25日には、在オーストリア日本大使館より磯公使がスツルガを訪問されました。スツルガ市長とともにワークショップを見学され、市役所の担当者、校長先生、先生方、生徒、JCCPが一堂に会し、プロジェクトを通して民族の異なる生徒が交流し未来の平和を築いていくことを歓迎しました。スツルガにも待ちにまった春がまもなくやってきます。これから暖かくなっていく中で、清掃車8台と清掃用具、絵画用具が到着し、共同清掃と共同絵画制作が始まろうとしています。



スーダン / ストリート チルドレンの ライフスキル向上を 目指して



中西 美絵 Mie Nakanishi
JCCP スーダン事務所 Representative

修了生には就職先の斡旋をしますが、これからは一人ひとりがここで身に付けた知識と技能をいかして働き、家族や自分自身の生活を改善し、それぞれの人生を切りひらいていくことになります。

一方の啓発活動では、おもに路上生活や半路上生活をする子どもや若者たちを対象に、基本的な自己管理や衛生観念、健康管理の方法を学んでもらうプロジェクトが進行中です。参加する子どもたち自身による演劇や、ビデオやポスターを用いて、薬物依存の危険性、犯罪の回避、衛生観念、HIV/AIDSへの知識、性教育の分野での啓発を行っていきます。ひとりでも多くの子どもや若者たちが、路上生活にともなう危険に気づき、暴力や事件に巻き込まれないための意識を持つこと、さらに教育や職業訓練への参加を促すことで、路上生活から抜け出すためのきっかけとなることを目的としています。

※このプロジェクトは、ジャパン・プラットフォームからの助成と、会員や寄付者の皆様からのご支援により実施しています。



住居支援地域に住む子どもたち。明るい陽の光と彼らの笑顔がまぶしい

ケニア

高井 史代 Fumiyo Takai
JCCP ケニア事務所 Programme Manager

NEW!

■より確かな平和を目指して

ケニアでは2010年2月から、暴動で被害を受けた人々の暮らしを再建し、平和をより確かなものにするためのプロジェクトが始まりました。対象となるのは、リフトバレー州のナイバシャ県とナクル県、そして首都ナイロビのマザレスラム地区です。これまでにJCCPが行った国内避難民への飲み水と住居の支援、そして暴動の被害者への心のケアの活動から学んだ経験を活かして計画しました。ケニアでは、2007年末の大統領選挙後に発生した暴動の被害に苦しむ人がいまだに多く、生活再建と地域の平和構築への中長期的な取り組みが必要になっています。そこで、今回のプロジェクトでは、現地の人たちによるボランティア組織（以下CBO）などを主役にしながら、彼らの能力を高めるトレーニングも兼ねて、異なる民族やグループの間の対立をやわらげ、共に暮らしていくためにいくつかの活動を行うことにしました。

★新任スタッフからご挨拶

2月よりJCCP在ケニア代表として着任いたしました。大統領選挙後の暴動で揺れたケニアは、ソマリア、和平案合意後の行く末が注目されるスーダンと国境を接しており、紛争防止、和平推進を目的とするJCCPの活動は、ケニアのみならず東アフリカにとって大きな意味を持っています。当ケニア事務所では、2008年の事務所開設以来、ケニア、ソマリアでのプロジェクトを手がけております。これまでのプロジェクト運営の経験を生かしながら、今後、さらなる拡充を事務所のスタッフ共々目指していきたく存じますので、日本の皆様からのご支援をよろしくお願いいたします！



西野 裕子 Hiroko Nishino / JCCP 在ケニア代表

平和構築の為の 新たなプロジェクト、 ケニアにて始動。

■紛争の火種をなくすために

ナイロビのマザレスラム地区では異なる民族がひしめき合って暮らしていて、暴動から2年たった今も民族間の対立や緊張関係がのこっています。また、暴動の根本的な原因のひとつだった貧困層の生活苦も多く聞かれます。一方、リフトバレー州のナイバシャ県とナクル県で新たな定住生活をはじめた国内避難民の多くは、国際機関やNGOなど外からの支援に頼る不安定な生活を送っていて、以前からそこで暮らしている人たちとの間でトラブルも起きています。このような異なるグループ間の緊張関係や暴動被害者の生活不安は、近い将来に再び紛争の火種となることが予想されます。これらの問題の解決に取り組むことはJCCPのミッションである地域の争いの再発を防ぐことにつながるものです。

■現地の人々を主役に

現在このプロジェクトでは、具体的にどのような問題があるのかを確かめるために、対象地域の行政府とCBO、そして現地の住民への事前調査をすすめているところです。まず現地行政府に行った事前調査の結果を参考に、対象地区の3か所で行政府の職員に対して平和構築ワークショップを開催しました。彼らはそれぞれの地域で住民グループや個人との連絡や調整を担当しているため、こうして知識と経験を増やすことは、コミュニティレベルでのめごとや紛争の調停能力を高め、現地で紛争予防をより確かなものにするにつながりま。

※このプロジェクトは、JICA（国際協力機構）の支援と、会員や寄付者の皆様からのご支援により実施しています。

略歴：2000年2月～2003年6月 世界食料機関(WFP)ソマリア事務所にてモニタリングと評価を担当
2003年7月～2005年8月 ユニセフのスリランカ事務所にて反政府組織タミルの虎(LTTE)との折衝などにあたる
2005年9月～2007年9月 南部スーダンのアウェイルにてユニセフの地方事務所代表を務める



JCCP 国内事業

山田 和哉 Kazuya Yamada / 東京本部事務局 広報担当

第21回 JCCP 講演会 『パキスタンのテロとの闘い— タリバンの現状と展望』

オラクザイ退役陸軍中將を招いて
2010年2月4日(木) 午後7時開会
JICA 地球ひろば(3階講堂) / 東京都港区広尾
協賛: JICA 地球ひろば 後援: 外務省

JCCP は 2010 年 2・3 月、
海外要人を迎えた講演会を行いました。



アル・カーイダやタリバンが勢力を保つエリアとして国際社会が注目するパキスタンの連邦直轄部族地域(FATA)で軍の責任者として治安を担当し、その後は北西辺境州(NWFP)の知事も務めたアリ・ムハンマド・ジャー・オラクザイ退役陸軍中將が2月初旬に来日されました。JCCP ではそのオラクザイ氏を招いて講演会を開催、約80名の方にご参加いただきました。オラクザイ氏からは、現地の実状や戦闘終結にむけた提言などが語られました。とりわけ、アル・カーイダや“強硬派のタリバン”との闘いには現地の歴史や文化への理解が欠かせないことや、戦闘終結と地域の安定には全ての当事者を集めた対話の場が必要であるという考えなどが示されました。

アリ・ムハンマド・ジャー・オラクザイ退役陸軍中將

1947年 連邦直轄部族地域オラクザイ管区出身

指揮参謀大学(クエッタ)卒 / 米陸軍歩兵将校上級課程修了
パキスタン国防大学 Armed Forces War Course 修了

1966年 陸軍入隊。
1999年 陸軍司令部参謀次長(VCGS)。
2000年 陸軍中將。
2001年 第11軍団長(ベシヤワル)。
2004年 陸軍退役。
2005年3月 防衛生産次官。
2006年5月-2008年1月 北西辺境州知事。

第22回 JCCP 講演会 『ネパールの民主化と 和平プロセスの行方』

ネパール・ कांग्रेस党ボーデル副総裁を招いて
2010年3月9日(火) 午後7時開会
東京外国語大学本郷サテライト(3階セミナールーム)
東京都文京区本郷



のべ15年間の獄中生活も含め、約半世紀にわたってネパールの民主化に取り組んでこられた、ラム・チャンドラ・ポーデル / ネパール・ कांग्रेस党副総裁の来日を機会に、ネパールの民主化と和平プロセスの見通しについてお話しいただく講演会を開催しました。当日は雪まじりの天候でしたが、30名ほどの参加者にお越しいただきました。ポーデル氏からは、ネパールの民主化への歩みにおいて कांग्रेस党が果たしてきた役割や内戦終結後も武力を保持し続けているマオイストとの交渉の内容について、当事者としてのお話を伺うことができました。

ラム・チャンドラ・ポーデル कांग्रेस党副総裁

1944年 タナフン郡出身

トリブバン大学修士号取得

1970年 ネパール学生連盟創設メンバー
1989年 कांग्रेस党中央委員会メンバー(現在まで)
1991年 下院議員に当選(現在まで) 地方開発大臣
1992年 農業大臣
1995年 下院議長(99年まで)
2000年 副首相兼情報通信大臣(後に内相も兼任)
2005年 कांग्रेस党幹事長に選任
2007年4月 暫定政府にて平和復興大臣に就任
2007年9月 कांग्रेस民主党との統合に伴い
 कांग्रेस党副総裁に就任
2008年4月 制憲議会選挙にてタナフン郡より当選

Check! →

上記講演会の議事録や、今後の講演会・セミナー等の情報は、JCCP ホームページでご覧いただけます。
URL: http://www.jccp.gr.jp/japan/hr_dev/study.html
※議事録の完全版は会員の方のみお送りしています。

Renewed!

2月8日に、JCCP のホームページをリニューアル致しました。
これからも皆様に JCCP の活動をわかりやすくお伝えするため、
より良いページを目指し改善していく予定です。

支援感謝

2010年1月-3月
東京本部事務局

私たちの活動にご理解とご支援を頂き、ありがとうございます。
以下の助成組織以外にも、書き損じハガキや寄付などを通じて
ご支援いただいた数々の皆様に、スタッフ一同より感謝申し上げます。
今後も私どもへのご支援を宜しくお願いいたします。



◆2010年1月11日

事業名：「異なる民族間の交流促進／スツルガ地区の小学生
による共同清掃とワークショップ」
事業地：マケドニア
助成組織：外務省
予算：128,061 ユーロ

◆2010年2月3日

事業名：「ソマリアにおけるコミュニティ治安システムの
基盤整備と評価」
事業地：ソマリア
助成組織：国連開発計画 (UNDP)
予算：99,994 ドル

◆2010年2月1日

事業名：UNDP/IPSTC（国際平和支援訓練センター）の
カリキュラム策定と助成
事業地：ケニア
助成組織：国連開発計画 (UNDP)
予算：120,000 ドル

◆2010年2月20日

事業名：「選挙暴動後の IDP およびスラムコミュニティ
における CBO 能力強化を通じた
共生プロジェクト」
事業地：ケニア
助成組織：独立行政法人国際協力機構 (JICA)
予算：47,638,549 円

◆2010年2月26日

事業名：「ケニア、マザレ・スラム地区における暴動
被害者の能力強化を通じた生活復興支援事業」
事業地：ケニア
助成組織：財団法人日本国際協力財団 (JICF)
予算：992,474 円

JCCP カレンダー

2010年2月-3月
東京本部事務局



メディア掲載

2010年1月-3月
東京本部事務局



■ 2月

4日 第21回 JCCP 講演会
『パキスタンのテロとの闘いータリバンとの現状と展望ー』
講演者：アリ・ムハンマド・ジャー・オラクザイ退役陸軍中將

9日 桐生西・桐生赤城ロータリークラブ共催
桐生赤城 RC 第 600 回例会記念講演会にて
瀬谷ルミ子事務局長が講演、「紛争地の人々に平和を築く」

10日 外務省・国連難民高等弁務官駐日事務所 (UNHCR) 主催
「ソマリアに関するシンポジウム」に
瀬谷ルミ子事務局長がパネリストとして参加

22日 広島平和構築人材育成センター (HPC)
主催シンポジウム特別セッション
「日本のアフガニスタン支援策を問う」に
瀬谷ルミ子事務局長がパネリストとして参加

24日 参議院 ODA 特別委員会
「平和構築と我が国 ODA の役割、援助人材の育成・活用」に
瀬谷ルミ子事務局長が参考人として出席。
ビデオ・オンデマンドで視聴可能→参議院ホームページ
"http://www.webtv.sangiin.go.jp/webtv/index.php"

■ 3月

9日 第22回 JCCP 講演会
『ネパールの民主化と和平プロセスの行方』
講演者：ラム・チャンドラ・ポーデル氏
(ネパール・ kongress 党副総裁)
会場：東京外国語大学本郷サテライト

13日 神奈川県青少年協会主催
『この世界のどこかで起きていることへ
～戦争 紛争 国際理解～』にて、大上博史事務局次長が講演

30日 第17回 JCCP 総会開催

■ 1月

1日
時事通信社による瀬谷ルミ子事務局長への取材記事が、羅
府新聞 (1日)、高知新聞 (3日)、静岡新聞 (4日夕刊)
などに掲載

4日
小学館『DIME』(2010年02・03号)の特集
「この100人がニッポンを変える！」に
瀬谷ルミ子事務局長紹介記事が掲載

8日
瀬谷ルミ子事務局長のインタビュー記事、桐生タイムス
に掲載

10日
瀬谷ルミ子事務局長のインタビューが、雑誌「クロワッサ
ン」(1月10日号)の「気合いの入った、あの女性に質問」
特集に掲載

10日
瀬谷ルミ子事務局長のインタビュー記事、毎日小学生新聞
に掲載

20日
瀬谷ルミ子事務局長のインタビュー記事
JMAM 人材教育発行の月刊『人材教育』
(2010年2月号)に掲載

25日
瀬谷ルミ子事務局長のインタビューが、五井平和財団機関
誌「平和の創造」第42号に掲載

■ 3月

8日
瀬谷ルミ子事務局長が、「外交フォーラム (4月号)
アフリカ離陸の条件」に記事を寄稿

会員案内

JCCP は、紛争予防・平和構築活動の重要性に賛同し、JCCP の活動にご協力、ご参加いただける会員を随時募集しております。

【入会方法】

- ◆入会申込書に必要事項をご記入の上、郵送、FAX、または Email にてお申込みください。
- ◆入会申込書は JCCP の HP (トップページ→支援する→会員になる) からダウンロードいただけるほか、ご連絡いただければ郵送いたします。
- ◆賛助会員、特別会員については当センターまでお問い合わせください。

【正会員】

- ◇賛助会員 年に 1 口 3 0 万円以上を納める個人または団体
- ◇支持会員 年に 1 口 2 万円以上を納める個人または団体
- ◇特別会員 詳細は当センターまでお問い合わせください。

【一般会員】

- ◇一般会員 年に 1 口 1 万円以上を納める個人または団体
- ◇サポーター会員 年に 1 口 5 千円以上を納める個人
- ◇学生サポーター会員 年に 1 口 3 千円以上を納める個人

【会員特典】

- JCCP の主催する会議、シンポジウム、公開講座、講演会等についての情報を提供し、優先的に参加いただけます。
- 正会員 (賛助会員・支持会員) は総会の構成員として JCCP 総会にご参加いただけます。
- JCCP 関連の出版書籍を割引にてご購入いただけます。

【寄付による支援】

JCCP 海外事業、国内事業を支援していただける方からの寄付金を随時受け付けております。

◆郵便振替で寄付をする・・・

郵便振替口座：00100-8-425569

加入者名：特定非営利活動法人 日本紛争予防センター

◆銀行口座から寄付をする・・・

三菱東京 UFJ 銀行：普 1111380

名義人：特定非営利活動法人 日本紛争予防センター

(お名前を特定できませんので、領収書が必要な方は、お手数ですがご連絡ください)

◆オンラインで寄付をする・・・

JCCP の HP (<http://www.jccp.gr.jp>) のトップページから、「募金をする」のページを選択していただき、オンラインで募金いただけます。



【書き損じハガキによる支援】

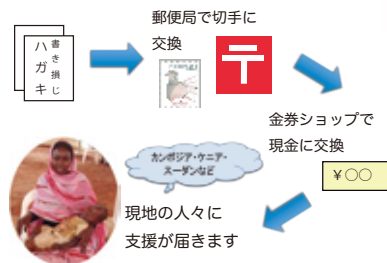
JCCP では、年賀状や暑中見舞いなどの書き損じハガキを、切手、現金に交換し、現地の支援に役立てています。

《 郵送先 》

〒112-0014

東京都文京区関口 1-35-20 藤田ビル 3F

日本紛争予防センター 書き損じハガキ係



例えば・・・

ハガキ 15 枚 (約 500 円)
ケニアの暴動でトラウマを負った子どもや女性 1 人が、心のケアを 1 回受けることができます。

ハガキ 30 枚 (約 1000 円)
紛争で親を亡くしたスーダンの子ども 1 人が、犯罪や暴力に巻き込まれないように守ることができます。

編集後記

事務所近くの神田川は、桜並木の名所でもあります。今年は桜の季節を迎えてから急に冷え込んだりしましたが、それでもひらと舞う花びらが神田川の川面をピンクに染めていく様子は心躍る情景でした。さて、今回のニュースレターでは、JCCP が 10 年にわたり活動してきたカンボジアを特集しました。紛争

- ・再発の可能性が極めて低くなった同国からの撤退は、平和の定着
- ・とガバナンスの向上を示すものです。その他の紛争地や紛争後の
- ・地域でも平和と安定が実現し、人々の選択肢が広がっていくこと
- ・を願ってやみません。
- ・
- ・
- ・

広報担当 山田和哉

Japan Center for Conflict Prevention Established 1999 NPO registered 2002

会長 明石康 元国連事務次長
顧問 近衛忠輝 日本赤十字社社長
高村正彦 元外務大臣
理事長 堂之脇光朗 外務省元大使
理事 伊勢崎賢治 東京外国語大学大学院教授
理事 入山映 サイバー大学客員教授
理事 小川和久 危機管理総合研究所所長

理事 折田正樹 中央大学教授
理事 柴田秀孝 株式会社 エムアンドアール 顧問
理事 塚本俊也 青山学院大学教授
理事 目加田説子 中央大学教授
監事 植村高雄 (特活) CULL カリタス
カウンセリング学会会長

住所 〒112-0014
東京都文京区関口 1-35-20
藤田ビル 3F
電話 03-5155-2142
FAX 03-5155-2143
e-mail contact@jccp.gr.jp
URL <http://www.jccp.gr.jp/>
発行日 2010 年 5 月 10 日 (季刊)
発行人 堂之脇光朗
編集人 瀬谷ルミ子
Volume 6, Issue 1, No. 17. JCCP © 2010